今週の
倫理

2023.8.19〜8.25

8月のテーマ ｜ いつでも変われる

1347号

息子の姿勢に学んだ自己革新への道

私たちが学ぶ純粋倫理は、原理原則によって成り立っています。倫理運動の創始者丸山敏雄は、その原理を「七つの原理」として世にあらわしました。七つある原理の中で根底をなす原理と言われているのが「全一統体の原理」です。この原理を端的に表現すると「現実世界の物事は、見えない次元で統合されている」となります。

具体的には、次のようになります。私たちの心は目に見えません。ところがこの心は、人や物、また自然と繋がり合っています。従って、自分の心が変わることで対人関係が変わり、物の働きが変わり、自然（環境）が動き出すことさえあるのです。

熱心に純粋倫理を学んでいるA社長には、大学受験を控えた息子がいます。小学生の頃から学校の成績もよく、スポーツも得意で、学級委員長に選出されるなどクラスのリーダー的存在でした。自ずと将来への期待も膨らんでいきました。

高校三年生になり、部活動も一区切りし、さあこれから受験に専念していくと思いきや、なかなか勉強に身が入らないのです。A社長は〈これまで部活動、学級委員長と身を粉にして頑張っており、小休止しているのだろう〉と思いました。そして、充電が完了したら、動き出すだろうと様子を見守っていました。ところが一向に勉強する気配が感じられません。さすがのA社長も痺れを切らし、息子をけしかけようとしました。その時、フッと頭をよぎったのが「子は親の心を実演する名優である」という『万人幸福の栞』の中の言葉でした。

〈息子はこれから新しい世界に船を漕ぎ出そうとしている。果たして、自分は新しいことに挑戦しているだろうか〉と自分自身を振り返ってみたのです。

するとどうでしょう、そこには現状に甘んじている自分がいたのです。業績は安定しており、何不自由なく生活できている状態に甘えているのではないか。また、社員には朝礼等の場面で、「新しいことに挑戦しよう、改善改革！」と言っておきながら、何もしていない自分がいたのです。

親子共々同じことをしていることに気づいたA社長は、息子をけしかける前に、自分が新たな一歩を踏み出さなければいけないと決心しました。

それからというもの、仕事上後回しにしがちなことは、面倒くさがらずに、その場で即座に対応する実践を心がけました。また、躊躇していた新規事業に思い切って挑戦し、無我夢中で走り抜いていったのです。

結果として新規事業は好成績を収め、事業拡大に結びつきました。そして何より嬉しかったのが、息子が目が覚めたように勉強に打ち込み始めたことです。

A社長は一連の出来事を振り返り、息子が自らの行動を通して、親である自分に気づきを与えてくれたのだと感じました。

今後も、「人は鏡、万象はわが師」を心に留め、周りで起きた出来事を自身へのメッセージと捉えて、身近な実践を通して自己革新に努めていきたいと誓ったのでした。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局